

令和5年度
学校関係者評価結果報告書

令和6年2月25日

学校法人隆志学園

田端さくら幼稚園

学校関係者評価委員会報告書

学校法人隆志学園 田端さくら幼稚園は、令和6年2月25日に「令和5年度 学校自己評価表」に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

令和6年2月25日作成 学校関係者評価委員会

学校法人隆志学園 田端さくら幼稚園

1. 学校関係者評価委員出席者 定員3名

- (1) 遠藤 雄子 (学校法人隆志学園 理事)
- (2) 津久井 恵津子 (学校法人隆志学園 理事)
- (3) 菊池 伸城 (学校法人隆志学園 理事)

学内出席者3名

- (1) 多家 広隆 (園長)
- (2) 杉田 美紀 (主任教諭)
- (3) 湯川 麻美子 (総務・運営)

2. 会議の概要

- (1) 園長挨拶 開会挨拶の後、田端さくら幼稚園教育課程及び学校関係者評価委員会についての概要、趣旨を説明。
- (2) 出席委員・学内出席者紹介
- (3) 本校概要説明 本校の沿革、保育内容、園児数、進学状況等について説明
- (4) 令和5年度自己評価結果について

保育の質を高めるための取り組み例について概要を説明したあと、自己点検・自己評価報告書をもとに、項目ごとの自己評価、課題、改善策について説明、出席委員との意見交換、質疑応答が行われた。

3. 令和5年度保育の質を高める取り組み例

①	ネイティブスピーカーによる英語正課の取り組み
目的	幼児期から外国語に親しみ、異文化に触れる機会をもつ。
内容	英語教育において特に効果的なのは、言語の習得に最もよい時期とされている小学校就学前から英語に親しむ。英語を身近に感じ、外国の文化に触れる興味・喜びを引き出す。カードや絵、音楽を用いた楽しいレッスンをを行う。
②	童謡歌手による童謡唱歌指導の取組み、日本古来の楽器の演奏を聴く。
目的	古くから日本に伝わる童謡・楽器を、歌い繋ぎまた聴く機会をもつことで日本の文化や美しい風景等を知り、継承する。
内容	童謡の専門講師による童謡指導を行い時代や世代を超えて歌い繋いでいきたい童謡の指導を通して豊かな感受性を育てる。2月に行うおゆうぎ会では楽器の演奏や童謡の発表も行っており、練習の成果を立派なホールで披露できる感動や達成感も感じることができるよう指導をしている。また琴の演奏を聴き、伝統楽器の素晴らしさに触れる機会をもった。

4. 学校関係者評価結果

大項目	学校関係者評価
基準1 保育の計画性	評価：B 適切である。 課題：学校の理念や教育目標を提示しているが、豊富な行事に長めの準備の期間を設定することが難しい。 改善策：早い準備開始を計画的に始めるよう、各担当者が早めの打ち合わせと声掛けを行う。
基準2 保育の在り方、幼児への対応	評価：A 十分に適切である。 課題：ECCネイティブスピーカーによる英語正課を令和3年度半ばより導入した。具体的カリキュラムの策定・検討が不足している。 改善策：令和6年度から正課内容・カリキュラムについての事前相談や立案を行い年間を通してのレベルアップを図っていく。 課題：同様には幼児になじみのない文言も多く、高音域など難しい歌も多い。 改善策：情景をイメージできるよう分かりやすい歌詞の説明やメロディのものの選曲をする。
基準3 保育者としての能力や良識・適性	評価：A 十分に適切である。 課題：職員間で規律と節度を保ち、和やかさと規律を保った組織である。幼稚園教諭としての専門性を高めていけるよう努力をしていく。 改善策：内部研修、外部研修の機会の確保
基準4 保護者への対応	評価：A 十分に適切である。 課題：保護者や未就園児へ情報を公開する機会を増やしたい。 改善策：園務システムの活用を通じより保護者や地域への情報発信等効果的効率的を使用を推進していく。 インスタグラムや郵便局への広告掲示など、新たな地域で幼稚園の存在を知ってもらう活動を始める。
基準5 地域の自然や社会との関わり	評価：C やや見直しの余地あり。 課題：幼小連携が今年度から再開したが全員初めての活動だった。 改善策：今年の経験をもとに、来年度からどのような目標を設定して活動に取り組むかを職員会議で話し合う。
基準6 研修と研究	評価：B 適切である。 課題：教員の資質向上について、日々の多忙な業務のなかで日程調整を含めた計画的な取り組みが課題である。 改善策：自分の不足している知識や経験について客観的に挙げ、その課題についての研修プログラムを春休み中に探す。

5. 令和4年度 学校関係者評価（令和4年度の自己評価についての評価）

大項目	学校関係者評価
基準1 保育の計画性	評価：B 適切である。
基準2 保育の在り方、幼児への対応	評価：B 適切である。
基準3 保育者としての能力や良識・適性	評価：A 十分に適切である。
基準4 保護者への対応	評価：B 適切である。
基準5 地域の自然や社会との関わり	評価：C やや見直しの余地あり。
基準6 研修と研究	評価：B 適切である。

6. 学校関係者評価 総括と課題について

項目	評価・意見
自己評価結果についての全体的な評価・意見等	「子どものしあわせを第一に考える」という教育方針のもと、子どもたちが心身ともに大きく強く思いやりある優しい人間として成長できるよう、教職員みなで子どもたちが安心して自己を発揮できる生活環境を整備している点に好感が持てる。また長年培ってきた田端さくらの保育・教育に加え、現代の時代に即した内容の教育も多く取り入れていることは、今の保護者のニーズに対応していると感じる。地域に根ざし、これからも地域になくてはならない幼稚園として、皆でこれからの発展を見守っていきたい。